2025年度　町田市立山崎中学校　学校経営計画・学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和8年3月31日

学校教育目標　　たくましく心豊かで「生きる力」を身に付けた生徒の育成を目指し次の教育目標を定める。　〇1 互いに認め、協力し合い、豊かな心を育てる。「人間関係形成力」　２ 正しく考え、やりとげる強さを持つ。「問題解決力」　３ 生命を尊重し、心と体を鍛える。「実践力」 〇目指す学校像・・・・・・・・学校生活の安全・安心を土台として、生徒のよさや可能性を引き出す学校 〇目指す児童・生徒像・・・自分のよさを自覚し、よさを活用しようとする生徒 〇目指す教師像・・・・・・・生徒の可能性を引き出し伸ばす教職員（生徒に寄り添う、専門性を高める、チームワークがよい、ライフワークバランスが整う）	学校経営の重点　「生きる力を育む」 義務教育完了とともに「自立した生活を営むことができる力を身に着ける」「自身の可能性に気づき幸せな人生を歩んでいくための素地を養う」 重点目標の成果と課題　【短期的目標】(1)生活指導：5つの大切の定着 「礼儀」「自分」「相手」「もの」「時間」を大切にできる生徒の育成 (2)学習指導：指導と評価の一体化　授業のUD化　市スタンダード授業改善シートを活用した授業改善 (3)自尊感情醸成：褒める認める指導の推進 (4)自己肯定感を高める：体験、傾聴、共感、並走、評価(励まし、助言、叱咤激励) (4)集団つくり：「誇れる上級生、学ぶ下級生」 年次進行の育成課題をもたせ育成する。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	家庭・地域への情報伝達	学校・学年だより等の掲載等を含めたホームページの更新頻度を高める。	4 毎日の更新 3 週2回の更新 2 毎週の更新 1 毎月の更新	4	A	4 保護者アンケート肯定率90%以上 3 保護者アンケート肯定率80%以上 2 保護者アンケート肯定率60%以上 1 保護者アンケート肯定率60%未満	98	A	〇ホームページは「毎日の更新」を達成しており、それが保護者の満足度にダイレクトに結びついている。 〇アンケート回収率は、設問を削減したり、回答しやすいようにフォームの画面を改善したりなどしたが、目標値（70%以上）に対して半分程度に留まっている。 〇地域人材の活用は、教員も「十分ではない」と感じており、保護者の評価もそれに連動している。 〇保護者や地域との連携は、学校側はもっと連携を深めたいという課題感をもっているが、保護者側はある程度、学校の姿勢を肯定的に捉えている。	〇高い満足度を維持するため、更新頻度を保つ。 〇アンケートは、保護者会での一斉回答やアプリ通知によるリマインドを徹底し、回答の機会を強制的に確保する。 〇ボランティアコーディネーター等と連携し、ボランティアの参画を授業や放課後学習へ組織的に組み込む体制を構築する。 〇良好な保護者評価を土台に、教員側から家庭や地域への働きかけの機会を創出する。	【学運協委員により左記の改善策承認】 〇ホームページは保護者や地域の方々が学校生活の日常を見られ、学校の活動について理解してもらえる貴重なツールであるので、更新を継続してほしい。 〇学校と地域との連携がもっと展開できるように、学運協としても地域への声掛けを行っていく。保護者の人材活用なども検討していきたい。	B
			学校評価保護者アンケートの実施と回収率を高める。	4 70%以上のアンケート回収 3 60%以上のアンケート回収 2 50%以上のアンケート回収 1 50%未満のアンケート回収	1	D	4 アンケートの回収率70%以上 3 アンケートの回収率60%以上 2 アンケートの回収率50%以上 1 アンケートの回収率50%未満	47	D				
		家庭・地域との連携強化	地域人材(授業・図書・部活動・放課後学習等)を活用した教育活動の推進する。 ●学校評価「学校は地域人材を積極的に活用した教育活動を行っている」	4 教員アンケート90%以上 3 教員アンケート80%以上 2 教員アンケート70%以上 1 教員アンケート70%未満	2.5	C	4 保護者アンケート肯定率90%以上 3 保護者アンケート肯定率80%以上 2 保護者アンケート肯定率70%以上 1 保護者アンケート肯定率70%未満	67	C				
			面談・教育相談の充実。学校公開の実施等による家庭・地域との連携推進。 ●学校評価「学校は保護者や地域と一体となって生徒を育てている」	4 教員アンケート90%以上 3 教員アンケート80%以上 2 教員アンケート70%以上 1 教員アンケート70%未満	2.5	C	4 保護者アンケート肯定率80%以上 3 保護者アンケート肯定率70%以上 2 保護者アンケート肯定率60%以上 1 保護者アンケート肯定率60%未満	76	B				
確かな学力の育成	**子どもが主体的に学び、教師が導く**授業**改革**を進め、**主体的・対話的で深い学びを実現することで**、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等**とともに学び続ける力**の育成**を図る。**	指導と評価の一体化・UD化の定着	自己申告書と町田市授業改善スタンダードシートへの授業改善課題明記・活用し改善を目指す。●学校評価「授業で各教科の基礎が身についている」	4 教員アンケート90%以上 3 教員アンケート80%以上 2 教員アンケート70%以上 1 教員アンケート70%未満	1	D	4 生徒アンケート「授業が分かる」90%以上 3 生徒アンケート「授業が分かる」80%以上 2 生徒アンケート「授業が分かる」70%以上 1 生徒アンケート「授業が分かる」60%未満	87	A	〇生徒アンケートでは肯定率が87%に達している一方で、教員側の自己評価は極めて低い。生徒の理解度に反して、教員側が「定着」の部分で強い課題感をもっていることを示している。 〇教科指導については、教員・生徒ともに高評価であり、学校全体の指導体制が適切に機能している。 〇ICTの有効活用では、教員・生徒双方の評価が一致して高く、学校全体としてICTを積極的に活用する環境が完全に定着していると言える。 〇協働的な学習では、生徒肯定率が高く、主体的・対話的で深い学びが教育現場で実践されている。	〇 生徒の「分かった」を「できる（定着）」に変えるため、基づいた振り返り活動を組織的に強化する。 〇教科指導の体制は、現行の良好な指導体制を維持しつつ、若手教員へスキルアップを目的とした授業観察を継続する。 〇ICTの活用の定着段階から習熟段階へ移行するため、個別最適な学びをさらに深めるデジタル教材の活用事例を共有する。 〇協働的な学習では、話し合いの「質」に焦点を当て、論理的思考力や多角的な視点を養う高度な対話活動を推進する。	【学運協委員により左記の改善策承認】 〇授業見学により、生徒が授業に楽しく取り組んでいる様子が見られた。定着に課題があるとのことなので、生徒自身が自分で学ぼうという姿勢が身に付けられるとよい。 〇家庭では学習に関して見えていない部分があるので、将来への展望を広い視野をもって見られるように、家庭でも子どもに対して指導していく必要がある。	A
			校内授業研修（年5回）、授業観察（毎学期）授業実施の振り返りアンケート実施（年度末） ●学校評価「学校の各教科の指導は適切である。」	4 教員アンケート90%以上 3 教員アンケート80%以上 2 教員アンケート70%以上 1 教員アンケート70%未満	4	A	4 生徒アンケート肯定率90%以上 3 生徒アンケート肯定率80%以上 2 生徒アンケート肯定率70%以上 1 生徒アンケート肯定率70%未満	93	A				
		主体的に学びに向かう生徒の育成	学習のめあてに応じて有効にICTを活用できる力を育てる。 ●学校評価「ICTを積極的に活用している」	4 教員アンケート80%以上 3 教員アンケート70%以上 2 教員アンケート60%以上 1 教員アンケート60%未満	4	A	4 生徒アンケート80%以上 3 生徒アンケート70%以上 2 生徒アンケート60%以上 1 生徒アンケート60%未満	98	A				
			話し合い学習する等、協働的な学習に取組み「考えを広げ、深める学び」を推進する。 ●学校評価「授業ではペアワークや話し合い活動が多く取り入れられている」	4 教員アンケート80%以上 3 教員アンケート70%以上 2 教員アンケート60%以上 1 教員アンケート60%未満	4	A	4 生徒アンケート80%以上 3 生徒アンケート70%以上 2 生徒アンケート60%以上 1 生徒アンケート60%未満	98	A				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	共生社会を目指して、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度の育成	特別な教科「道徳」の充実 ●学校評価「学校は特別な教科　道徳の充実に取り組んでいる」	4 教員アンケート90%以上 3 教員アンケート80%以上 2 教員アンケート70%以上 1 教員アンケート70%未満	3.5	A	4 生徒アンケート肯定率90%以上 3 生徒アンケート肯定率80%以上 2 生徒アンケート肯定率70%以上 1 生徒アンケート肯定率70%未満	85	A	〇「道徳」では、学校全体で道徳教育の充実に組織的に取り組んでいる成果が表れている。 〇校訓「5つの大切」については、教員の100%が実施し、礼儀や時間を大切にする具体的な望ましい行動として生徒の日常生活に浸透している。 〇自己肯定感の育成については、教員の「褒める・認める指導」が、生徒の自己肯定感を高める良好な人間関係の構築に寄与している。 〇教員全員が「いじめ・体罰防止」に取り組んでおり、生徒の91%が「学校が楽しい」と回答している。人権を大切にする指導体制が徹底されている。	〇組織的な道徳教育の取り組みを継続しつつ、生徒が多角的な視点で議論を深められるような発問構成の工夫を推進する。 〇校訓を日常生活への定着をさらに確実にするため、生徒同士が互いの「5つの大切」に基づく善行を認め合う場を設ける。 〇「褒める・認める指導」を継続し、教員から生徒への働きかけに加え、生徒同士が認め合い自信を深める活動を強化する。 〇いじめ防止と人権に対する肯定率を維持・向上させるため、定期的なアンケートや教育相談を徹底し、微細な変化を早期に察知する体制を堅持する。	【学運協委員により左記の改善策承認】 〇多様性や調和を大事にした教育活動をこれからも継続してほしい。ただし、多様性という言葉が都合のいい使い方にならないよう、気を付けて生徒に指導していく必要がある。 〇豊かな心の涵養については、各家庭の指導によるところも非常に大きい。学校と家庭が連携しつつ、「ダメなものはダメ」という姿勢で厳しく子どもに接していくことが大事である。	A
			校訓「5つの大切」の周知による望ましい行動力の育成。 ●学校評価・「礼儀」「自分」「相手」「もの」「時間」を大切にして生活している。	4 100%の教員が実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施 1 80%未満の教員が実施	4	A	4 生徒アンケート肯定率90%以上 3 生徒アンケート肯定率80%以上 2 生徒アンケート肯定率70%以上 1 生徒アンケート肯定率70%未満	94	A				
		人権尊重教育の推進	褒める・認める指導を推進し自己肯定感を育む。 ●学校評価「先生は、生徒を褒める・認める指導をしている」	4 100%の教員が実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施 1 80%未満の教員が実施	4	A	4 生徒アンケート「大切にされている」肯定率90%以上 3 生徒アンケート「大切にされている」肯定率80%以上 2 生徒アンケート「大切にされている」肯定率70%以上 1 生徒アンケート「大切にされている」肯定率70%未満	89	A				
			「いじめの見逃しゼロ」を目標に取り組む。 ●学校評価「学校は、いじめ防止や体罰防止に取り組み生徒の人権を大切にしている」	4 100%の教員が実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施 1 80%未満の教員が実施	4	A	4 生徒アンケート「学校が楽しい」肯定率90%以上 3 生徒アンケート「学校が楽しい」肯定率80%以上 2 生徒アンケート「学校が楽しい」肯定率70%以上 1 生徒アンケート「学校が楽しい」肯定率70%未満	91	A				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する.	正しい生活習慣を身に着け、学校生活に前向きに取り組む意欲と継続力の醸成	朝読書の通年実施。 ●学校評価「私は進んで読書している」	4 教員アンケート月～金で90%以上のクラスで実施 3 教員アンケート月～金で80%以上のクラスで実施 2 教員アンケート月～金で70%以上のクラスで実施 1 教員アンケート月～金で70%未満のクラスで実施	4	A	4 生徒アンケート肯定率80%以上 3 生徒アンケート肯定率70%以上 2 生徒アンケート肯定率60%以上 1 生徒アンケート肯定率60%未満	46	D	〇朝読書は、活動の実施自体は定着しているものの、生徒の内発的な読書意欲や習慣化には至っていない。 〇挨拶の励行は、教員の100%が実施し、生徒の肯定率も非常に高い。学校全体で活気のあるコミュニケーションが行われている。 〇校舎内外の環境整備は、教員、生徒共に高い評価を得ている。環境美化への取り組みが、生徒にとっても目に見える形で成果を上げている。 〇学校の雰囲気づくりでは、教員、生徒共に肯定率が高く、良好で落ち着いた学習環境が維持されている。	〇朝読書の実施の形骸化を防ぐため、図書委員による推薦図書の紹介やビブリオバトルなど、興味を喚起する仕掛けを導入する。 〇現状の活発なコミュニケーションを維持しつつ、学校外の地域住民に対しても進んで挨拶ができるよう、活動の範囲を広げる。 〇高い美化意識を継続させるため、環境委員による美化コンクールや、自分たちの手で環境を整える「愛校心」を育む活動を強化する。 〇良好な学習環境を堅持するため、現在の落ち着いた情緒を基盤としつつ、生徒がより主体的に学びに向かえるよう、教室環境のさらなる充実を図る。	【学運協委員により左記の改善策承認】 〇放課後の学習教室が図書室に来るよいきっかけになっている。今後も生徒が本に親しめる環境を整えていきたい。 〇挨拶はコミュニケーションにおいてとても大切である。小中高で連携している挨拶キャンペーンは非常によい取り組みなので、今後も継続してほしい。 〇校内に掲示してある写真や、廊下に設置されたベンチなど、生徒が楽しく過ごせる校内環境が整っていることは、とても素晴らしい。	A
			挨拶の励行 ●学校評価「私は、進んで挨拶をしている」	4 100%の教員が実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施 1 80%未満の教員が実施	4	A	4 生徒アンケート肯定率90%以上 3 生徒アンケート肯定率80%以上 2 生徒アンケート肯定率70%以上 1 生徒アンケート肯定率70%未満	96	A				
		安全な人的環境を整え、自己・他者の命や心身を守る力を育成するための全校体制を徹底する	校舎内外の環境整備・整備に取り組む。 ●学校評価「学校は校内整備や美化に取り組んでいる」	4 教員アンケート月～金で90%以上のクラスで実施 3 教員アンケート月～金で80%以上のクラスで実施 2 教員アンケート月～金で70%以上のクラスで実施 1 教員アンケート月～金で70%未満のクラスで実施	4	A	4 生徒アンケート肯定率90%以上 3 生徒アンケート肯定率80%以上 2 生徒アンケート肯定率70%以上 1 生徒アンケート肯定率70%未満	91	A				
			落ち着いて生活、学習できる雰囲気の学校づくりに取組む。 ●学校評価「学校は、落ち着いて生活、学習できる雰囲気である」	4 教員アンケート90%以上 3 教員アンケート80%以上 2 教員アンケート70%以上 1 教員アンケート70%未満	4	A	4 生徒アンケート肯定率90%以上 3 生徒アンケート肯定率80%以上 2 生徒アンケート肯定率70%以上 1 生徒アンケート肯定率70%未満	89	A				
その他													

取組指標の評価基準（結果数値からABCD評価へ）

取組指標平均　３．５以上	⇒	評価A
取組指標平均　３以上３．５未満	⇒	評価B
取組指標平均　２以上３未満	⇒	評価C
取組指標平均　２未満	⇒	評価D

成果指標評価基準

成果指標平均　80%以上	⇒評価A
成果指標平均　70%以上	⇒評価B
成果指標平均　55%以上	⇒評価C
成果指標平均　55%未満	⇒評価D

学校関係者評価の評価基準例

A⇒　取組・成果ともに十分評価できる
B⇒　取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒　目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒　重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※　学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。

※　学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。